みやこんじょ

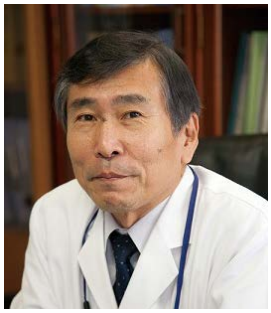
No.42

発行日 2016年1月1日
発　行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本理念 高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

新しい年の初めに

院長　井　口　厚　司



新年、明けましておめでとうございます。

2016年の干支は申（さる）です。十二支はそれぞれ身近な動物が割り当てられており、それでいうと今年は「猿（さる）」ということになりますが、「申」の本来の読みは「しん」であり「稲妻」を表すと言われています。稲妻が屈折しながらあちこちの方向に走ることから、申告や申請のように「申す（もうす）」として使われていますし、「伸びる」、「伸ばす」という意味も持っているようです。

昨年11月に待望の外来診療管理棟が供用開始されました。旧外来棟に比べますと延べ床面積は3倍近くになり、通路も広がってゆったりした解放感があります。実際に診療を開始してみると所々不具合に感じる部分はあるかと思いますが、それでも新しい環境で新年を迎えるのはわれわれ職員にとっても気分のよいものですし、そして何より当院を訪れる外来患者さんやご家族にとってもきっと満足していただいているものと思います。今年の6月にはサービス棟（売店、食堂・他）と患者さん用の駐車場、そして外構が完成し全ての工事が終了致します。どうぞ、最終完成図を思い浮かべて楽しみにしていてください。

さて、新年早々ですが2016年は医療機関にとって益々大変な年になりそうです。増加する一方の社会保障費を抑えるために4月の診療報酬改定は2期連続マイナス改定になることは必定で、診療報酬のみを収入源としている当院にとってもさらに厳しい季節になることが予想されます。追い打ちをかけるように消費増税も控えています。昨年から地域医療構想に基づいた病床機能に関する協議が始まっていますが、多くの医療機関においては先の見えにくい医療提供体制の変化に対して危機意識をもち、専守防衛を共通の認識としているように見受けられます。当院にとっても将来予測は不透明であり、少なくともこれまで以上の経営努力が必要であることは言うまでもありません。健全経営の基盤あってこその良質な医療提供ですので、職員の皆様の一層の意識改革と実行をよろしくお願いいたします。

昨年12月に総合品質管理（TQM）推進室を立ち上げました。質の高い医療を提供する病院には患者さんが集まり、そうでないところからは離れていくということは誰でも理解できる事実です。医療の質は、「構造」・「過程」・「結果」の3つの要素に分けられますが、その中で最も大切な要素は「結果」であると常々思っています。最良の「結果」を得ることができるように「構造」を重視し、最良の「結果」に繋がるような「過程」を模索するわけですが、是非TQM推進室を中心に院内全体で患者さんにとっての最良の「結果」を目指して邁進してほしいと願っています。一昨年、病院機能評価の初めての受審の際に培われた医療の質向上の意識を「伸ばす」意味からも、「申年」の今年の意義は大きいものと思います。

申年は西暦年を12で除した場合、余りが出ない年です。すなわち、紀元前の最後の年が申年で、その翌年に西暦元年を迎えたことになるわけです。皆様の力で今年を「伸びる」1年として翌年へと繋げていってください。良い年でありますように。

整形外科・健康寿命の延長を目指して

副院長
税所 幸一郎

整形外科医長
吉川 教恵

整形外科医師
上通 一師

最近、整形外科学会では、高齢者の歩行障害、易転倒性、易介護状態をもたらす包括的な疾患としてロコモティブシンドロームを掲げ、その概念を啓蒙しています。内科疾患におけるメタボリックシンドロームの二番煎じのような印象は否めませんが、平均年齢も上昇し超高齢化社会を迎えつつある我が国、我が都城にとって非常に重要な疾患概念といえます。厚生労働省の報告によると、男性の平均寿命は約 80 歳、女性の平均寿命は約 86 歳ですが、日常生活に制限のない健康寿命は男性 約 70 歳、女性は約 74 歳であり、健康寿命とのギャップは男性で約 10 年、女性で約 12 年です。これは日常生活に制限のある期間にあたりますので上記の期間の生活の質（QOL=quality of life）は著しく低下します。それに伴い、周囲の家族の負担、社会負担が増加します。ロコモティブシンドロームの原因の一つとして運動器疾患があります。関節の自己免疫疾患である関節リウマチ、骨粗鬆症に伴う易骨折性（脊椎圧迫骨折・大腿骨近位部骨折など）、軟骨の変性による変形性膝関節症などが代表的な疾患として挙げられます。当科ではこれらの疾患や様々な外傷の加療を行っています。

関節リウマチに対しては抗リウマチ薬や生物学的製剤を積極的に導入しています。早期の生物学的製剤の導入により関節変形が進行する患者様は減少傾向ですが変形が進行した場合には人工関節などで対応しています。

骨粗鬆症に対しては骨形成・骨吸収マーカーや骨密度の測定、家族歴・骨折歴聴取、年齢考慮のうえ、治療方針を決定します。特に女性は平均の骨密度の方でも 70 台前半で骨密度 70%を下回り骨折のリスクが増加します。また、骨密度が良くても骨質が不良と考えられる場合や家族で骨折歴がある場合なども治療対象となっています。現在、日本での骨粗鬆症患者は 1000 万人（うち 800 万人が女性）を超えるといわれていますが、そのうち 200 万人しか治療を受けていないのが現状です。早期の骨粗鬆症加療により脊椎圧迫骨折や大腿骨近位部骨折を予防することが一番の目的です。

変形性膝関節症は膝関節のクッションの役割や関節運動を滑らかにする軟骨が摩耗することにより疼痛を来す疾患です。歩行開始時に膝関節の内側に疼痛を自覚することが多く、進行すると O 脚となり関節可動域および筋力低下を来します。こうして運動機能低下⇒疼痛増悪という悪循環に陥り転倒・骨折リスクも高まり最後には寝たきり状態となってしまいます。治療は保存療法、手術療法があります。保存療法は鎮痛剤内服やリハビリ指導が中心となります。保存療法で治療効果が得られない場合には、人工膝関節置換術などの手術を検討します。人工膝関節は日々、進化しており最近では耐用年数 20 年以上といわれています。また、人工膝関節置換術は周術期の疼痛が比較的、強い手術でしたが、カクテル製剤局所投与の導入によりかなり軽減しスムーズにリハビリに移行できるようになっています。東京大学医学部 22 世紀医療センターの報告によるとレントゲン上、変形性膝関節症を呈する方は 2400 万人と推定されており今後、さらに増加すると予想されます。

当科では上記のような加療を通じて都城地区の健康寿命の延長、QOL の改善を目指して微力ながら努力したいと考えています。

耳鼻咽喉科の案内

耳鼻咽喉科医長
外山 勝浩

耳鼻咽喉科医師
宮永 宜明

国立病院機構都城医療センターの耳鼻咽喉科診療は平成 24 年 10 月から 2 人体制で行っています。また、平成 27 年 4 月からは聴覚専門の言語聴覚士が常勤になり、評価の難しい乳幼児の聴力検査（条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査、ABR 検査など）や顔面神経麻痺の予後を推測するのに有効な ENoG 検査を担当しています。一般外来は月曜から木曜までの午前中に、月曜日の午後には難聴専門外来を行っています。また、月に 2 回、火曜の午後に補聴器外来を行い、新規購入、既購入を問わずフィッティングを行っています。11 月には診察室が新外来棟へ移転し、これまでの窮屈な診察室に代わって、プライバシーに配慮可能なゆったりしたスペースで診療を行っています。聴力検査に必要な防音室も大きくとってあり、標準純音聴力検査に加え ABR 検査や補聴器の調整に必要な自由音場での検査が可能となっています。

昨年度の外来診療実績は紹介率 61.2％で、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎などの炎症性疾患を始めとして咽喉頭癌、唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍性疾患、頸部リンパ節関連疾患など多くの症例をご紹介頂きました。炎症性疾患では、保存的治療よりも手術が望ましいと考えられる場合には積極的に手術を行い、頭頸部の悪性腫瘍につきましては、確定診断後に画像検査で病期を決定し、可能な限り機能保存した治療を行うよう努めています。上顎癌や舌癌など、症例によっては放射線科で超選択的動注療法と 40Gy の放射線治療を施行し、その後計画的にミニマムサージェリーを行うなどしています。最近の傾向ですが、咽喉頭癌に関し、内視鏡機器の発達あるいは消化器内科・外科の先生の意識の変化によるものか、上部消化管検査の際に早期に腫瘍を発見・ご紹介頂き、放射線治療のみで治療が完結する症例が増加してきています。頸部リンパ節関連疾患については鼻腔・咽喉頭の悪性腫瘍を念頭に置き、画像･内視鏡検査でこれらを否定した後に細胞診あるいはリンパ節生検を行っています。その結果、悪性リンパ腫、肺癌や消化器癌の転移と診断される症例が少なくありません。

水曜の午後と金曜に全身麻酔下の手術を、木曜の午後に局所麻酔下の手術を行っています。昨年度の手術実績では、口蓋扁桃摘出術 62 件、内視鏡下鼻副鼻腔手術 30 件、鼓室形成術 26 件、喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）11 件、声帯ポリープ摘出術 9 件、鼻中隔矯正術 6 件、その他と多くは炎症性の疾患でした。そのような中、反回神経麻痺を伴った甲状腺腫瘍症例で、術中に反回神経再建術を行い、術後数ヶ月後で嗄声が改善した症例やもともと顔面麻痺のない耳下腺癌症例で、顔面神経を含めた腫瘍切除後に神経再建を行い、術後に顔面の緊張が保たれた症例等を経験しています。手術によってはこのように運動神経切断を余儀なくされる症例もありますので、神経再建できる場合には可能な限り実施し、機能低下による精神的苦痛が軽減されるよう工夫しています。

都城、西諸県郡、志布志、鹿屋方面に耳鼻咽喉科のベッドがある施設は限られており非常に貴重です。手術に関する入院期間はなるべく短期にし、手術以外の患者さんの受け入れができるよう体制を整えております。耳鼻咽喉科領域の救急疾患を有する患者さんにつきましては可能な限り受け入れるつもりでおりますので、入院の可否につきましてお気軽にお問い合わせ頂けますと幸いに存じます。

新外来診療管理棟グランドオープン

平成27年11月4日(水)長らく待ち望んだ「新外来診療管理棟」がついにグランドオープンしました。振り返れば平成26年7月14日に着工し、約15ヶ月の工期を経て完成となりました。天候不順等による工期の遅れで完成が危ぶまれやきもきすることもありましたが、予定通りの日に無事オープンすることができ感無量です。

旧外来棟は半世紀近くが経過し老朽化が激しく診療科の増加に伴い手狭になっていました。また、天井も低く暗いイメージでしたが、新外来棟は開放感のある高い吹き抜けのロビーを始め中央廊下にかけて床、壁、天井等に高級感あふれる色合いの内装を施し、明るく清潔なアメニティーとなっています。待合スペースや診察室、処置室、採血室等は十分な広さを確保しました。また、地域医療連携室、がん相談支援センター、入院支援センターを受付ホールに配置し、患者さまの利便性を重視するとともに、二階フロアには150名収容の大会議ホールを設置して、地域住民の皆さま向けの公開講座や地域の病院・診療所を対象とした研修等に利用できる施設を確保し、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として地域に貢献できる機能の充実を図っています。新外来棟は、必ずや皆さまに喜んでもらえる施設になるものと確信しています。どうぞ存分にご利用、ご活用いただけるよう期待しています。

今後の予定ですが、平成28年6月末までの工期で、旧外来棟を取り壊してその跡地にサービス棟の新築と約200台収容の外来駐車場の整備を行います。外来駐車場についてはもうしばらくの間ご迷惑をおかけすることになりますが、どうぞご協力の程よろしくお願いいたします。

（企画課長　大田四郎）

高性能80列マルチスライスＣＴが設置されました

都城医療センター外来棟の新築に伴い、画像診断センターに高性能 80 列マルチスライスＣＴ（東芝 Aquilion PRIME Focus Edition）が新規設置されました。

この検査では、患者様が寝台に横になるだけで苦痛もなく頭部や胸・腹部の断層像（輪切り）が鮮明に撮れます。検査はとても簡単で短時間ながら広範囲の撮影ができ、頭部外傷、脳出血・脳梗塞等の頭部疾患から胸部疾患および腹部臓器（肝・胆・膵・腎・膀胱・その他）疾患にいたるまで、全身の診断が可能です。

また、付属のワークスーションにて３Ｄ画像・脳血管描出・腹部解析などの最先端の画像解析を効率的に行うことができるようになりました。

さらに大腸ＣＴ検査は内視鏡が苦痛な人に対しては低侵襲な検査として、有用性が期待されます。そして造影ＣＴにて心臓解析（冠動脈、心機能、石灰化など）の検査もできるようになりました。

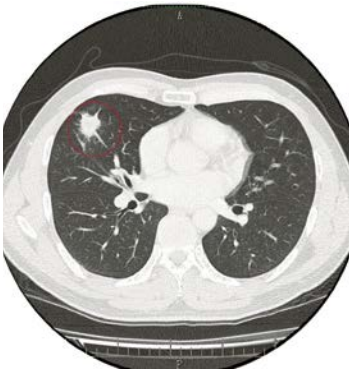
検査は架台開口径 780mm の大型寝台で、今まで懸念されがちな圧迫感も感じることなく、患者様はリラックスしながら安心して検査を受けていただけます。また高度な被ばく低減技術が可能になっています。くわしい検査内容は、医師またはスタッフまでお気軽にお尋ねください。

画像センターでは、他医療機関との大型医療機器（ＣＴ，ＭＲＩ，ＲＩ）共同利用も行っています。都城医療センターダイヤルインにて予約できます。くわしくは当院ホームページ（地域連携）をご覧下さい。

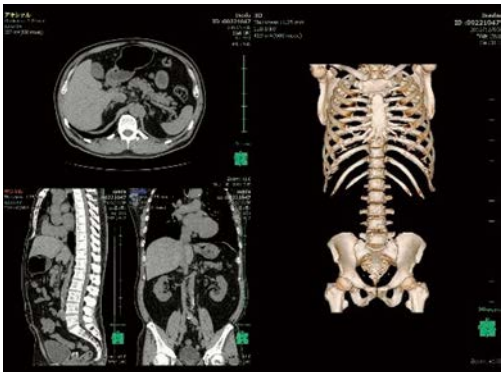
（放射線技師長　池田純信）

東芝マルチスライスＣＴ（Aquilion PRIME Focus Edition）

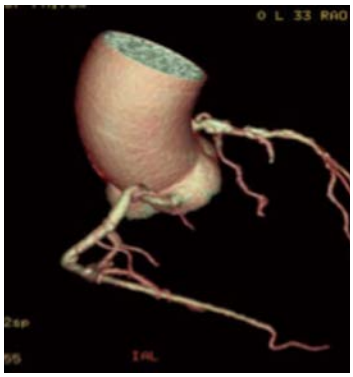
頭部



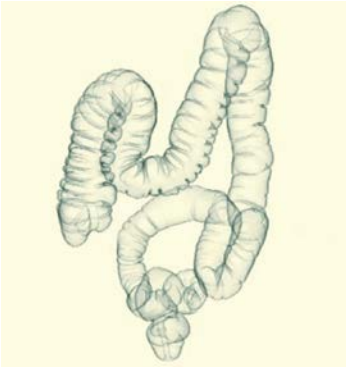
胸部



腹部（骨）



心臓



大腸

第8回 健康フェスタ

～こころとからだの健康フェスタ　2015～

平成27年11月14日（土）、毎年恒例の「健康フェスタ」を開催しました。

当日はあいにくの雨となり来場者数を心配していましたが、蓋を開けると昨年を上回る来場者にお越しいただき大盛況となりました。

今年は何と言っても11月に新外来診療管理棟がオープンしたばかりであり、新しい建物の中で測定・健康相談・体験等13のコーナーを設け、各ブースとても賑わっていました。

そして今年初の試みとして前立腺がんPSA検査を行いました。その場で採血をしてその日のうちに検査結果を出し、その後井口院長直々に検査結果を説明するという企画を行いました。先着30名という人数制限を設けましたが、なんと制限数の30名の方の申し込みがありました。この検査に関しては多くの方から好評を頂きました。

その他にも警察署・消防署の協力によるパトカー・白バイ・消防車、当院の救急車の車両展示コーナーではチビッコに人気があり、軽食コーナー・模擬店では事務部長・看護部長を筆頭にカレー・たこ焼き等を振る舞い、また市民のための健康講座では都城市ご当地キャラ「ぼんちくん」も駆けつけ一緒にラジオ体操を行い、たくさんのイベントに老若男女を問わず満足していただけたかと思います。

今年度についての反省点も多々ありますが、来年開催時への糧とし、より良い健康フェスタになるよう、またもっと地域から愛される病院になるよう職員一丸となって頑張って参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（庶務係長　上原　直樹）

誓いの式

入学して７か月が経ち、私たち69回生は、平成27年10月30日（金）、誓いの式でチーフを受け取り、キャンドルに火を灯しました。また、多くの方の前で「ナイチンゲール誓詞」と「誓いの言葉」を誓うことで、看護師になることへの思いを高め、看護師になるための第一歩を踏み出すことができ、素晴らしい経験となりました。

看護をする上で、患者さんとその家族の思いに寄り添い、信頼関係を築くことが大切です。また、患者さんと良好なコミュニケーションを図ったり、幅広い視野で「人」を理解したり、確かな技術と知識を身につけることが大事です。そのために、意欲を持って積極的に講義や演習、実習に取り組もうと思いました。

まだまだ不安もありますが、クラス全員で一致団結して学習に励み、自信をつけていこうと思います。　（69回生　田渕百恵）

六十九回生 誓いのことば

私たちは、患者さんとその家族の思いに寄り添い、信頼関係を築きながら患者さん一人一人に合った最良の看護が実践できる看護師になることを誓います。

一つ　あらゆる物事に興味・関心を持ち、豊かな人間性を高め、幅広い視野で看護の対象である「人」を理解するよう努めます。

一つ　絶えず相手の立場になって物事を考え、良好なコミュニケーションが図れるよう努力します。

一つ　患者さんに対し適切な思考・判断ができるよう確かな技術と知識を身に付け、自らの意志で学習に取り組みます。

連携医療機関のご紹介

医療法人　明成会

吉松病院

理事長
吉松 成博 先生

院長
吉松 正明 先生

所在地	〒885-0051　宮崎県都城市蔵原町5-29
TEL・FAX	TEL　0986－25－1500　FAX　0986－23－6463
HP	www.yoshimatsu.or.jp
診療科目	内科、胃腸科、外科、整形外科、肛門科、リハビリテーション科、麻酔科、乳腺外来（水曜14時～予約制）
診療時間	平日9:00 ～ 12:00、13:30 ～ 18:00 土曜9:00 ～ 12:00、13:30 ～ 15:00 午後は、検査、手術、病棟回診、処置等で待ち時間が長くなったり、診れないこともあります。
休診日	日曜、祝日、年末年始は休診、但し急患はこの限りではありません

デイケアセラピー犬（ハナちゃん）

先代の父が、昭和39年に大正時代より続く平田病院を引き継ぎ、吉松外科病院を開院したのが始まりです。昭和55年、吉松病院に改名。平成11年、病院新築（48床／一般病床24床、療養型24床）、デイケアセンター、リハビリテーションセンター（理学療法士、2名）、介護支援事業所を併設。外科医の吉松正明先生、整形外科医の私、成博が診療に加わり、平成19年より外科医の佐藤新五先生も加わり常勤医3名で消化器外科、整形外科診療を行っています。また平成27年6月より水曜日、14:00から乳腺外来（予約制）を始めました。

当院は、整形外科、外科、胃腸科、肛門科を中心に行う48床の民間病院で、救急、急性期から慢性期、介護まで対処しています。胃癌・大腸検診（内視鏡検査）、各種検査（マルチスライスCT、超音波検査、骨粗鬆検査等）診断、治療、リハビリテーション、介護支援、通所サービスを行っています。最近は胃瘻造設、痔核、痔瘻等の肛門疾患や鼡径ヘルニアの手術が増えました。

都城医療センター（旧国立都城病院）とはなじみが深く、先代の父は、昭和35年に、熊本大学第二外科派遣の初代外科医長として国立都城病院に約4年勤務。私や吉松正明先生も勤務研修させていただきました。

数年前より大腿骨頸部骨折地域連携パスを利用し、都城医療センターでの手術後、当院でリハビリを中心とした回復期医療を行い、確実に成果をあげています。またハイリスクで治療に難渋する患者様をいつも迅速に受け入れていただいて、とても感謝しております。

高齢者の疾病、認知症が多く、在宅へ早期復帰をめざしても、御家族の意向で介護施設入所になるまで、療養型病床に入院になるケースやあわてて介護保険を申請し、介護保険サービス開始まで退院できないケースが増えました。核家族化のため、一人暮らしの高齢者が多くなったのが大きな要因です。患者様や御家族にもっと満足していただける医療ができないか、模索している毎日です。

吉松病院は地域基幹病院の都城医療センターと綿密に連携し、地域から愛され信頼される医療環境を今後も提供してまいります。

外来診療科別週間担当医当番表　独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【 全診療科　初診予約制 】受付時間 8:30 ～ 11:00　【平成 28 年 1 月 1 日】

診療科名等			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液		前田宏一	休診		
		肝	加藤順也				
	再診		前田宏一	加藤順也	前田宏一 加藤順也	前田宏一 加藤順也 日高智徳	前田宏一 加藤順也
循環器内科			阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎		阿南隆一郎
呼吸器内科			後藤康高	後藤康高	後藤康高	後藤康高	後藤康高
呼吸器外科	初診		手術日	巻幡聡	手術日	巻幡聡	手術日
	再診			巻幡聡 加藤文章		巻幡聡 加藤文章	
小児科（午後は完全予約制）	午前	1診	樫木仁	樫木仁	平島要	入江慎二	入江慎二
	午後	1診	樫木仁	横山晃子（乳児健診）	入江慎二	横山晃子	平島要
		2診	平島要	入江慎二	樫木仁	樫木仁	樫木仁
外科	初診		後藤又朗	手術日	後藤又朗	手術日	後藤又朗
	再診		後藤又朗 藏元一崇		後藤又朗 問端輔		後藤又朗 藏元一崇
消化器病センター			駒田直人	駒田直人	駒田直人	駒田直人	駒田直人
						橋本神奈（午後より）	
乳腺科			後藤又朗		後藤又朗		
整形外科	初診			吉川教恵	手術日	吉川教恵 上通一師	
	再診		税所幸一郎 上通一師				吉川教恵
リウマチ科			税所幸一郎	税所幸一郎（再診のみ）		休診	税所幸一郎（再診のみ）
泌尿器科		1診	手術日	山崎丈嗣	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
		2診		井口厚司	慶田喜文	黒島和樹	慶田喜文
皮膚科 ※3				中山文子（午前）		中山文子（午前）	中山文子（午前）
産婦人科		初診	徳永修一	卜部浩俊	徳永修一		卜部浩俊
		再診		終日：徳永修一 午後：卜部浩俊		卜部浩俊	徳永修一
耳鼻咽喉科		一般	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	手術日
		難聴外来	池ノ上あゆみ（14:00～17:00）				
放射線科		初診再診	日野祐一	新村耕平	日野祐一	新村耕平	日野祐一
		放射線治療	新村耕平	日野祐一	新村耕平	日野祐一	新村耕平
歯科口腔外科		一般	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞 有村真一郎	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	手術日
		ペインクリニック					横山幸三（午後）
		障がい者歯科					森主宜延（月1回）
がんサポート外来 ※4			新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平
緩和ケア外来 ※4							林章敏（第四金曜日）
特殊外来			マザークラス（第二・四月曜日）	フットケア外来	助産師相談室（午後）	母乳外来	ストーマ外来（午後）
				リンパ浮腫外来		リンパ浮腫外来	

［その他の特殊診療］

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管	気管支	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管（午後より宮大） 気管支	上部消化管 下部消化管
透視撮影（胃）	外科		外科		
骨塩ドック（骨粗鬆症検査）【予約制（14:00以降）】		整形外科		整形外科	

※1　全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※2　医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
※3　皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時～ 12時30分となっております。
※4　がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前にがん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。
※5　セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。がん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地１　TEL（0986）23-4111　FAX【地域医療連携室】（0986）26-1893　FAX【代表】（0986）24-3864

独立行政法人 国立病院機構
都城医療センター（地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター）
〒885-0014　宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111（代表）　FAX/0986-24-3864
E-mail/syomu-2@.hosp.go.jp　http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会